

図1 海況の概要

### 今月の概況

今月の海況の概要は図1の通りです。6月初旬には、常磐北部海域に冷水が分布しており、本県北部海域に達しています。一方で、本県には暖水が広く分布しています。黒潮は房総半島から離岸南偏して東方へ流去しています。

平成22年5月31日～6月3日に調査船「いばらき丸」により海洋観測を実施しました。水深100mから見た本県海域の海況は以下のとおりです。

※水深100mは海洋構造の把握に適していると考えられています。

※図の黒点は観測点です。

①水温は5～15℃台となりました(図2)。前月と比べると、鹿島以北で著しく昇温しましたが、以南では降温しました(図3)。また、平年と比べると北部沿岸域や犬吠埼沖で「低め」で、それ以外の広い範囲で「高め」となりました(図4)。

②塩分は33.4～34.6PSU台で、特に34.5PSU以上が広く分布しました(図5)。

その他の特徴は以下のとおりです。

③北部のごく沿岸域には北方から冷水が流入しており「低め基調」になりました(図6, 7)。また、犬吠埼沿岸域は東経141度30分付近まで低水温、低塩分が広く分布したことや、黒潮流路が離岸南偏していることから、平年に比べても著しく低めとなりました(図8, 9)。一方で、沖合域は5月末の黒潮の流路変動に伴って黒潮系暖水が本県全域に広く波及しており、「高め基調」になりました。それら冷水と暖水の間には水温が急激に変化していました。

④南部海域のごく沿岸域に岸に沿って潮目が形成されていました。岸寄りの表層数mに極めて低い塩分濃度を観測したことから河川水の流入で形成されたものと考えられます。

⑤ごく沿岸は弱い逆潮、その沖合(岸から12マイル前後)は真潮でした(図10)。

### 今後の見通し(1ヶ月程度)

・現在、親潮第1分枝は北緯39度30分の平年並みに位置しています。今後は徐々に勢力を増して北緯38度付近に南下すると予測されています(気象庁)。東北海域は水温が低下してくると考えられますが、本県海域に直ちに影響を与えることはないでしょう。

・黒潮はN型(直進流路)で、離岸及び南偏傾向で推移し、本県海域への暖水波及は弱まるでしょう。

・気温の上昇により表層付近に水温躍層が形成されるでしょう。

・水温を平年と比べると沖合域を中心にして「高め」で推移しますが、徐々に降温してくるでしょう。また、ごく沿岸域は北方から冷水波及が断続的に続くでしょう。

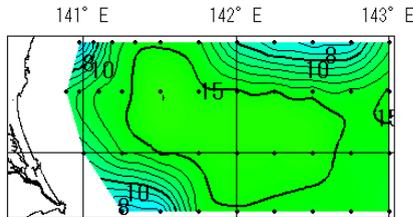


図2 100m深水温(°C)

### 今後の見通し(1ヶ月程度)

・現在、親潮第1分枝は北緯39度30分の平年並みに位置しています。今後は徐々に勢力を増して北緯38度付近に南下すると予測されています(気象庁)。東北海域は水温が低下してくると考えられますが、本県海域に直ちに影響を与えることはないでしょう。

・黒潮はN型(直進流路)で、離岸及び南偏傾向で推移し、本県海域への暖水波及は弱まるでしょう。

・気温の上昇により表層付近に水温躍層が形成されるでしょう。

・水温を平年と比べると沖合域を中心にして「高め」で推移しますが、徐々に降温してくるでしょう。また、ごく沿岸域は北方から冷水波及が断続的に続くでしょう。

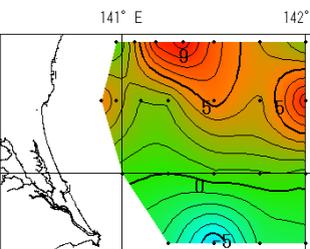


図3 100m深水温前月差(°C)

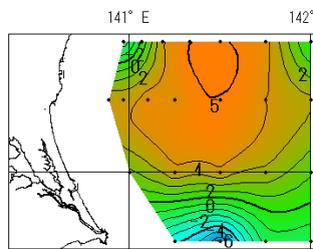


図4 100m深水温偏差(°C)

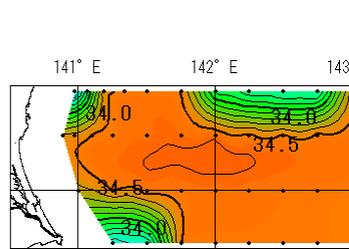


図5 100m深塩分(PSU)

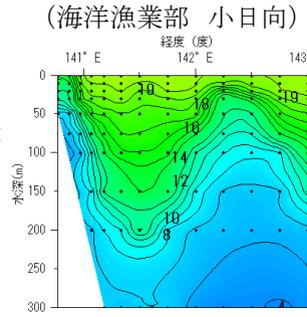


図6 会瀬沖鉛直水温(°C)

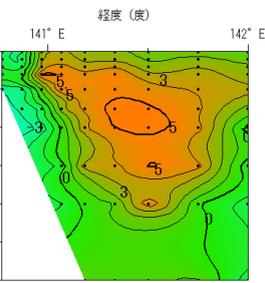


図7 会瀬沖鉛直水温偏差(°C)

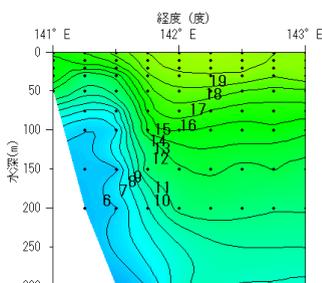


図8 犬吠埼沖鉛直水温(°C)

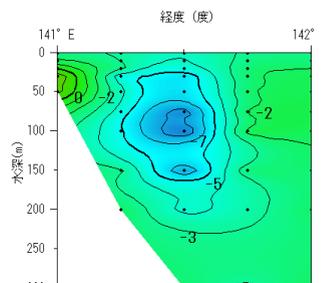


図9 犬吠埼沖鉛直水温偏差(°C)

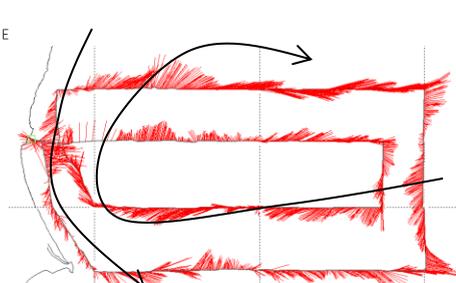


図10 本県海域の流向流速(17m)



## 平成22年6月の海況と今後の予測

### 1. 本県周辺海域の概況

- ・今月の海況の概要は図1のとおりです。
- ・常磐北部海域に冷水が分布しており、一部は本県北部海域に達しています。そのため、沖合域の暖水との間に潮目を形成しています。
- ・黒潮は前月末に蛇行が東へ抜けたためN型(直進流路)になりました。現在は犬吠埼から離岸・南偏して東へ流去しています。

### 2. 海洋観測結果(5/31~6/3:いばらき丸)

- ・海面から水深200mの水温を図2~図5に、水深100mの前月差を図4、平年偏差を図5、塩分を図6に示しました。
- ・水温を平年と比べると黒潮の流路変動により暖水が波及したため沖合域を中心に高めとなりました。一方で、北方からの冷水波及の影響により北部のごく沿岸域や犬吠埼沿岸域は低めとなりました(図7~図10)。
- ・南部海域のごく沿岸域に潮目が形成されていました。岸寄りの海域の塩分濃度が低かったことから、河川水の流入により形成されたものと考えられます。
- ・ごく沿岸は弱い逆潮、その沖合(岸から12マイル前後)は真潮でした(図11)。

### 3. 今後の1カ月の見通し

- ・親潮第1分枝は南下傾向を強めますが、本県海域が直ちに影響を受けることはないでしょう。
- ・黒潮流路はN型で、犬吠埼から離岸・南偏傾向で推移し、本県海域への暖水波及は弱まるでしょう。
- ・気温の上昇により表層付近に水温躍層が形成されるでしょう。
- ・水温を平年と比べると沖合域を中心にして「高め」で推移しますが、ごく沿岸域は北方からの冷水波及が断続的に続くでしょう。

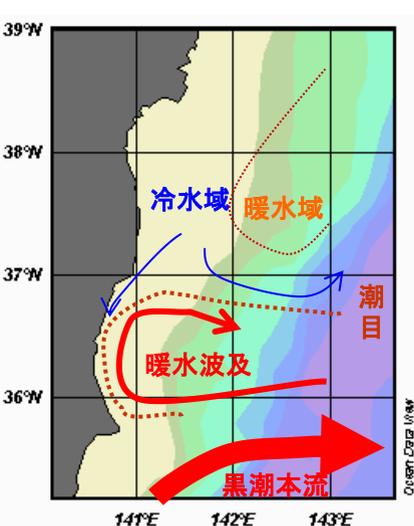


図1 海況の概要

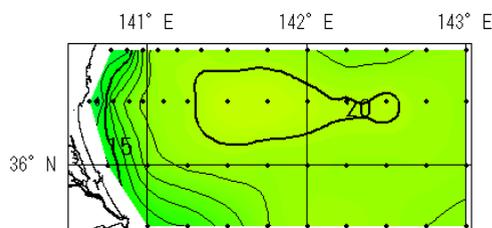


図2 海面水温(°C)

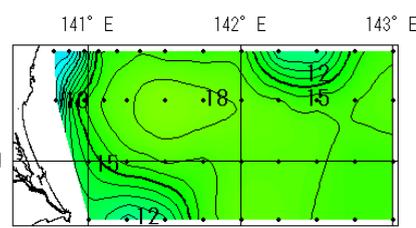


図3 50m深水温(°C)

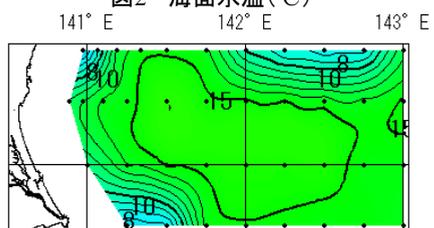


図4 100m深水温(°C)

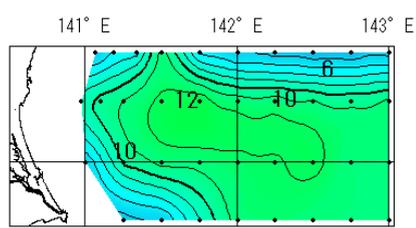


図5 200m深水温(°C)

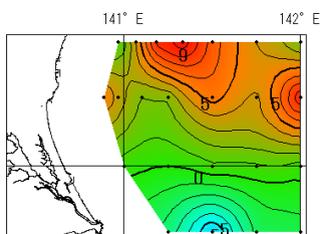


図4 100m深水温前月差(°C)

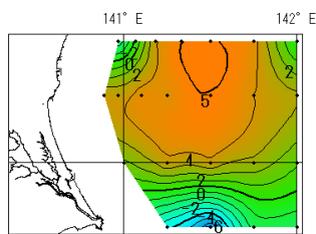


図5 100m深水温偏差(°C)

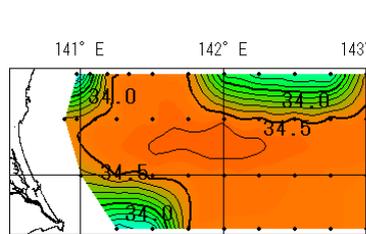


図6 100m深塩分(PSU)

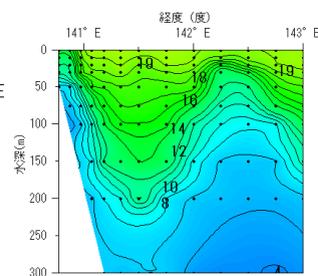


図7 会瀬沖鉛直水温(°C)

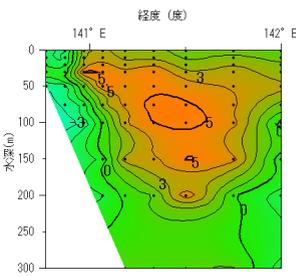


図8 会瀬沖鉛直水温偏差(°C)

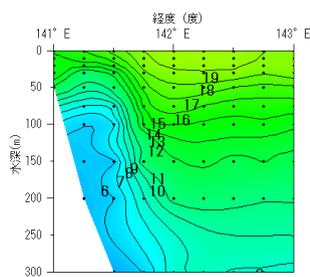


図9 犬吠埼沖鉛直水温(°C)

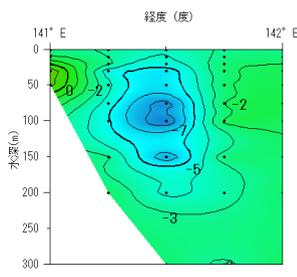


図10 犬吠埼沖鉛直水温偏差(°C)

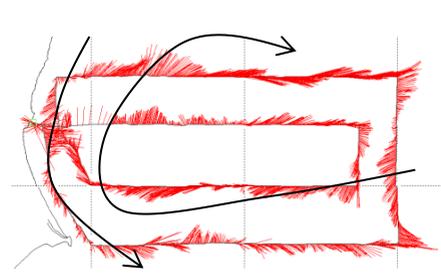


図11 本県海域の流向流速(17m)